

日本英文学会東北支部ニュースレター

Newsletter

The Tohoku Branch of the English Literary Society of Japan

2018 年 6 月号 (June 2018)

発行 日本英文学会東北支部 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学 英語教育講座 竹森徹士研究室内
TEL: 022-214-3496 E-mail: tohoku@elsj.org URL: <http://www.elsj.org/tohoku/>

支部長挨拶

日本英文学会東北支部長 大河内 昌

多くの支部会員諸氏もすでにご存じのように、前支部長の箭川修先生（東北学院大学教授）が本年 3 月に逝去されました。私は箭川前支部長のご病気のため、一昨年の 4 月に副支部長から繰り上がって支部長に就任した経緯があるので、箭川先生がご闘病を続けていることは知っていましたが、授業を継続されていると伝え聞いていたので、もしかすると完全復活される日も近いかもしれないと期待していた矢先の訃報だったので、たいへんにショックを受けました。箭川先生は十七世紀を中心とする英文学研究において目覚ましい業績を残されただけでなく、東北支部の理事、副支部長、支部長を歴任され、東北地方の英文学研究を組織面でも支えてくださいました。そうした箭川先生を失ったことは、たいへんに大きな打撃です。私事に渡りますが、箭川先生と私は大学院の同級生で、三十年以上にわたるお付き合いをさせていただきました。長年にわたる学友を失ったことは、私個人にとっても大きな悲しみです。しかし、われわれが早くショックから立ち直って、支部の活動を活発にすることが箭川先生のこれまでのご努力に応えることになると考えています。箭川先生から支部長職を引き継いだあと、幸いにも、福士航前事務局長、竹森徹士現事務局長やその他の事務局員のみなさん、そして理事の先生方のご支援によって、なんとか大過なく東北支部を運営することができていますが、私自身の力不足のせいで、おおいに活発な活動ができていないのが残念です。私見では、かつての東北英文学会を日本英文学会の支部に組織改編した最大のメリットは、『東北英文学研究』という査読付学会誌を東北支部から出せるようになったことです。『東北英文学研究』に論文を掲載すれば、全国に三千人いる日本英文学会の会員の目に触れることになります。ここまでの会員数・読者数をもつ英米文学・英語学の雑誌はごく少数なのですが、論文の投稿数は多くはありません。ぜひ会員諸氏によって活用してほしいと思います。また、東北支部には若手のためのトラベルグラントや講演会補助の制度もあります。支部のホームページに規定と申請方法が書いてあります。ぜひ、これらもご利用ください。

入退会手続きおよび会費納入について

全ての東北支部会員の入退会手続きおよび会費納入は、支部事務局ではなく本部事務局を通じて行われることになります。日本英文学会 HP (<http://www.elsj.org/>) に入退会に関する情報がございまして、ご覧下さい。詳しくは本部事務局 (ejimu@elsj.org) へお尋ねください。年会費は、本部会費 (7000 円) + 支部会費 (1000 円) です。

第 73 回支部大会の開催について

2018 年 4 月 14 日（土）に第 1 回理事会および大会準備委員会が開催され、日程等の協議が行われました。審議の結果、第 73 回大会は以下の日程で行われることになりました。

日時：2018 年 12 月 1 日（土）

場所：山形大学小白川キャンパス 人文社会科学部 1 号館

みなさまお誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

研究発表応募要項

第 73 回大会で研究発表をご希望の方は、（１）研究発表概要（2000 字・審査用）、（２）概要の要旨（400 字・採用された場合に大会プログラムに掲載）、（３）カヴァーレターの 3 点を 6 月 22 日（金）までに MS Word 形式の添付ファイルにして、東北支部事務局（tohoku@elsj.org）までお送りください。

また、（３）のカヴァーレターは、東北支部 HP（<http://www.elsj.org/tohoku/>）よりダウンロードしたものをお使い下さいますようお願い申し上げます。

シンポジウムについて

第 73 回大会で行われる予定のシンポジウムについては、現在次のような企画が進行中です。どうぞご期待ください。

- ◆英米文学部門：テーマ：「モダニティの問題としての “dissociation of sensibility”
ーグローバルなメディア文化による再考」（仮題）

司会・講師：今井裕美（東北文教大学短期大学部）

講師：大田信良（東京学芸大学）梶理和子（山形県立保健医療大学）吉田直希（成城大学）

- ◆英語学部門：テーマ：「語用論と他分野のインターフェースー言語学内外での語用論の応用可能性を探る」

司会・講師：三上傑（東北大学）

講師：高木幸子（常磐大学）坂本暁彦（常磐大学）草薙邦広（広島大学）

五十嵐啓太（会津大学短期大学部）

大会準備委員について

今年度の大会準備委員は以下の会員が務めます。

英文学部門：佐藤恵（東北生活文化大学短期大学部）鈴木淳（東北工業大学）

米文学部門：金子淳（山形大学）星かおり（東北学院大学（非））

英語学英语教育部門：三上傑（東北大学）五十嵐啓太（会津大学短期大学部）

開催校委員：中村隆（山形大学）

編集委員について

今年度の編集委員は以下の会員が務めます。

英文学部門：境野直樹（岩手大学）樋渡さゆり（明治大学）鈴木淳（東北工業大学）

米文学部門：中山悟視（尚絅学院大学）熊本早苗（岩手県立大学）宇津まり子（山形大学）

英語学英语教育部門：ルプシャ・コルネリア（岩手県立大学）佐藤元樹（福島大学）

三村敬之（岩手県立大学）

事務局の体制について

宮城教育大学准教授・竹森徹士が事務局長を、東北大学教授・島越郎が事務局長補佐を、東北大学大学院生・佐藤亮輔が事務局員を務めております。支部大会開催関係事務と会計を竹森が、出版関係事務を島が、HP 管理を佐藤が担当しております。事務局へのご連絡は e メール（tohoku@elsj.org）をお使いください。

理事会報告

2018年4月14日に、本年度第1回理事会が開催されました。以下にその議事録を掲載します。

日本英文学会東北支部 2018年度第1回理事会

議 事 録

日 時 2018年4月14日（土）・15:00～17:00

場 所 東北大学文学研究科棟・中会議室（3階）

出席者（順不同・敬称略）

支 部 長 大河内昌（東北大学）

副 支部長 佐々木和貴（秋田大学）

理 事 石橋敬太郎（岩手県立大学）大西洋一（秋田大学）奥野浩子（弘前大学）金子淳（山形大学）

川田潤（福島大学）鈴木亨（山形大学）鈴木雅之（宮城学院女子大学）

* 金子義明（東北大学）村上東（秋田大学）理事は都合により欠席

事 務 局 竹森徹士（事務局長） 島越郎（事務局長補佐） 佐藤亮輔（事務局員）

議 題

報告事項

(1) 本部理事会報告

大河内支部長より、例年発行の冊子『大会Proceedings』は、諸般の都合により今年度を最後に発行を終了し、その後はWeb上に掲載する予定であることが報告された。また、学会の会員数が毎年50人程度減っており、現在の学会の規模は3千人を切る程度の規模であることが報告された。

(1) 2017年度事業報告（資料1）

事務局が提示した事業報告が承認された。

(2) 2017年度決算報告（資料2）

事務局が提示した決算報告が承認された。

(3) 2017年度監査報告（資料2）

事務局より監査報告について説明があり、承認された。

(4) 2018年度事業計画について（資料3）

事務局が提示した事業計画が承認された。加えて、今年度4月1日締切のトラベルgrant申請において理事会審議で承認された1件について、助成手続の完了が報告された。

支部大会開催に関して、一定の時期に開催日を設定することを求める意見があった。過去の開催状況および現況を踏まえた意見交換の結果、11月中の開催を目安とすることが承認された。

(5) 2018年度予算について（資料4）

事務局より予算案が提示され、予算額の概要と増減に関する説明があり、承認された。

(6) その他

今年度は理事会改選選挙の年であることから、事務局より従来のやり方で選挙を行うことが提案され、承認された。10番目の得票者が同点で複数いた場合、地域および専攻分野のバランスを勘案して候補者を決定することが承認された。さらに地域および専攻分野を勘案しながら5名以内の理事を追加で選出することが可能であること（支部規約第九条）も承認された。

村上理事より、日本アメリカ文学会東北支部役員会からの見解として現行体制の見直しを依頼する旨の報告がなされた（村上理事は当日欠席により事務局が代理報告）。日本アメリカ文学会東北支部の厳しい運営状況をふまえてのアメリカ文学部門の役割分担の見直しであり、種々の議論の結果、本年度の編集委員会において対応を図ることが提案され、承認された。

以上